

誰でも入れる委員会

校則はみんなで決める



学校生活をより良くするために、私たちが3月7日、誰でも活動できる委員会「生活向上委員会」を立ち上げた学校がある。その「生活向上委員会」は活動を通して、「部活や雨の日以外の下校は制服」の校則を、今月から「ジャージで帰ってもいい」と変えました。

ひたちなか・那珂湊中



生徒会長の高星美月さん、生活向上委員会委員長の川上真央さん、副委員長の磯崎友理さんに話を聞きました。全員3年生です。

④学校生活について話し合う生活向上委員会のメンバー⑤ひたちなか市立那珂湊中提供(ていぎょう)⑥ジャージで下校する生徒たち

「ジャージ下校もOK」



ひたちなか市立勝倉小 6年 高木一佳さん

28日に東京・日本未来科学館で開かれる「第6回子ども新聞サミット」に参加するのは、ひたちなか市立勝倉小6年の高木一佳さん。サミットに向け

「理想の学校」をテーマに話し合うチームの合同取材に参加したり、県内の学校を個別に取材したりしてきました。高木さんは演劇が大好きで、将来の夢は「人を笑顔にすることがしたい」と話します。学校生活をより良くしようと、生徒が自発的に活動した一つの事例を取材しました。



取材の様子

「生徒たちが真剣に考えた」

那珂湊中では下校の前に清掃の時間があります。清掃はジャージに着替えて行いますが、これまで部活がある日や雨の日以外は、清掃を終えるとまた制服に着替えて下校するルールとなっていました。

生活向上委員会のアンケートでは、「冬はスカートでは寒い。ジャージ下校を」「帰宅部にはジャージ下校がない」などの声が寄せられ、見直しの対象となりました。髪形の校則についても多くの意見が寄せられており、話し合いが続いているそうです。

委員会を担当する小林聖先生は活動について、「最初はおもった楽な方に流されてしまうのではという心配もあったが、違った。一つ一つ『この校則は大変だけど理由があるよね』などと考えていた。服装についても『制服を着ると気分が切り替わるよね』とう意見も出た。『面倒くさいからジャージでいいや』ではなく、真剣に考えて取り組んでくれた」と話しました。

1回、学校生活の満足度や校則について聞くアンケートを取ったり、アンケート結果をもとに委員会などで話し合い、学校に要望書を提出したりする活動を行っています。アンケートは、生徒が答えやすいように質問などを工夫しています。川上さんは「校則って何のためにあるんだろう。変えるならば最低ラインはどこまでだろうなど、真剣に考えた」と話しました。委員会は、生徒会とも協力しています。磯崎さんは「誰でも自由に入れる委員会なので、歯止めがきかなくなったからだと思った。三権分立」

のよつに、生活向上委員会と生徒会、学校がそれぞれの役割で、助け合っている。川上さんは「委員会に入っている人も入っていない人も先生もハッピーになれる。この委員会はとても楽しかった」と活動を振り返りました。高星さんも「生徒の意見が取り入れやすくなると思っていて、こういう委員会ができてうれしかったし、生徒会としても助かった。校則についての意識も変わり、意欲的に意見を出してくれる人が多くなった気がする」と話しました。(高木一佳)